

JMFF

日機連週報

第3522号 2025年10月3日(金)

CONTENTS

● 委員会報告

令和8年度税制改正に関する機械業界の要望書を提出
— 日機連、経済産業省始め関係の各省、各機関等にその実現を要望 —

● RRI 活動報告

「サーキュラーエコノミー検討タクスホース」2024年度報告書を公表
「産業データ連携アクショングループ」2024年度報告書を公表

● 日機連の動き

ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会(RRI)「第4回 VUCA時代に求められる未来を設計するための準備ワークショップ」参加者募集について

● 会員イベント情報

(一社)日本フルードパワー工業会

「2025年度第2回目油圧講座・空気圧講座」のご案内

(一社)日本工作機械工業会 第8回「工作機械検定(MT検定)」開催のお知らせ

● お知らせ

(一社)日本食品機械工業会 「FOOMA JAPAN 2026」出展のご案内

(一社)日本機械学会主催 「産業界と学術界の協創ーニーズとシーズをつなぐ会」
開催のお知らせ

日機連ではホームページを開設しておりますのでご利用下さい。

URL : <https://www.jmf.or.jp>

[バックナンバーはこちらから](#)

<禁無断転載>

● 委員会報告

令和 8 年度税制改正に関する機械業界の要望書を提出

— 日機連、経済産業省始め関係の各省、各機関等にその実現を要望 —

日機連では、**税制金融政策特別委員会**(委員長・今井一朗 川崎重工業(株) 執行役員管理本部長)中心に令和 8 年度税制改正に関する日機連要望を検討、とりまとめ、9 月 16 日(火)に経済産業大臣以下経済産業省幹部を中心に、財務省、総務省、環境省等の関係省庁、日本経団連等の関係各機関等に要望書を提出、その実現を要望した。

要望書は、研究開発税制の拡充等、GX 向け等の設備投資関連税制の拡充・改善、新たな国際課税制度への対応、の 3 項目で構成している。

今後は、当会の要望項目の実現に向けて、陳情活動を展開することとしている。

要望書の全文は以下の通り。

令和 8 年度税制改正に関する機械業界の要望書

足下では世界における脱炭素の方向性に不透明感が生じつつあるが、グリーントランスフォーメーション(GX)を念頭に産業界には国内投資の具現化が求められている。

産業界全体でイノベーションを起こし、生産性を向上させ、グローバル市場における日本企業の競争力を強化するため、一般社団法人 日本機械工業連合会は機械工業関連の 46 会員企業及び 44 会員団体で構成する総合団体として、令和 8 年度税制改正に関して、研究開発税制を中心に税制上の支援策として下記税制項目の実現を強く要望する。

また、令和 7 年度与党税制改正大綱において法人税のあり方に言及されているが、我が国の法人税率は OECD 主要国や近隣アジア諸国と比較して依然として高く、海外においては米国等、法人税率の引下げの動きもあること、法人税改革に伴う税率引き下げ後も法人税収は 2021 年度以降に増加し続けていること、税収中立の制約の下で拡大された課税ベースを本来あるべき姿に戻すことなど法人税率の検討に当たってはグローバル市場における日本企業の競争力を強化する観点にも留意願いたい。

(1) 研究開発税制の拡充等

研究開発はイノベーションを加速させ、我が国の経済発展の源泉となっている。研究開発は時間と資金を要する長期的な取り組みであり、企業が将来の研究開発計画を立案しやすく、持続的なイノベーション活動を展開することが可能となるよう、企業の研究開発投資マインドを後押しする税制措置や優遇制度の長期的な見通しと安定性を確保して頂きたい。

令和 7 年度末に期限を迎える「**研究開発促進税制(一般型)**」の控除額算出に掛かる特別措置は、企業の研究開発投資の増加を促す観点において、必要欠くべからざるものである。また、「**研究**

開発促進税制(オープンイノベーション型)や「オープンイノベーション促進税制」は、産学連携や企業間連携を促進し、イノベーションを支える基盤を強化するために必要な施策である。これらの特別措置や税制について、適用期限の延長と制度拡充(研究開発促進税制の基礎研究部分の控除率上乘せ、控除限度超過額の繰越可能期間の復活、オープンイノベーション型の高度研究人財に係る人件費の税額控除の要件緩和や監査要件の緩和等)を要望する。

また、令和 6 年度税制改正において創設されたイノベーションボックス税制は、「知財を組み込んだ製品・サービスの売却益」や「子会社からのロイヤリティ収入」が制度適用の対象外である等限定的であり、更に、手続きが煩雑で企業の事務負担が大きいのが現状。研究成果の実用化を後押しするため、制度の拡充及び簡素化をお願いしたい。

(2) GXに向けた設備投資関連税制の拡充、改善

我が国生産現場の設備老朽化は深刻で、2023 年度経済財政白書では、日本は G7 で 2 番目にヴィンテージが長くなっていると分析、第 7 次エネルギー基本計画でも新規設備等の導入の重要性が指摘されている。レガシー設備の更新は生産性向上、労働力不足解消、DX・GX の推進、国際競争力の確保等に関連する重要な課題であり、企業の設備投資を後押しする設備投資促進税制の拡充、改善を要望する。

特に、令和 7 年度末に期限を迎える「カーボンニュートラルに向けた設備投資促進税制」は、民間企業による脱炭素化投資の加速化に大きく貢献しており、米国のパリ協定再離脱による影響は想定されるものの、2050 年のカーボンニュートラル達成に向け、産業界への GX に向けた設備投資の拡大要請は継続するため、当該税制を再延長すると共に、適用要件の緩和・対象の拡大、手続きの簡素化等の制度拡充を求める。

米国を始め世界で投資誘致競争が激しくなっている中、国内で大型投資拡大をさせることが喫緊の課題であるが、構造改革を目的とした大型設備投資には、検討から稼働開始まで長期間を要することから、税制支援を長期的に安定させることで、企業が計画的な投資を行いやすい環境整備を求める。

また、機械装置等に対する固定資産税の課税は、中小企業に限定して令和 8 年度末まで軽減が図られているが、機械装置等の償却資産への固定資産税の課税は国際的に見て極めて異例であり、我が国産業の国際競争力を低下させると共に、設備投資促進の大きな阻害要因となっている。特に再生可能エネルギー設備やエネルギー効率化技術への投資等、巨額の投資が必要な GX 関連設備への投資を促進するため、GX を先導する大企業も含めた撤廃、抜本的是正を強く要望する。

(3) 経済のデジタル化に伴う新たな国際課税制度への対応

経済のデジタル化に伴う新たな国際課税ルールについては、世界的合意を受けて各国間調整作業が進められてきたが、第二次トランプ政権が国際枠組みからの離脱の動きを示すなど今後の動向が不透明感を増している。国際課税制度の改正においては、企業が事業計画を円滑に策定できるよう十分な猶予期間を設けるとともに、明確なルールの確立や統一的なガイドラインの策定により透明性と予測可能性を向上させること、目的外の増税とならないこと、二重課税の排除、簡素化などを求める。

第 2 の柱への対応として「グローバル・ミニマム課税」については、報告義務や手続きの簡素化、税率計算方法の明確化等による企業の過大な事務負担の軽減を求める。加えて、海外支店への適用ルールについても実態に即した見直しを行い、OECD にてモデルルールを明確化頂いた上で、ODA 案件で現地政府から免税措置を受けている場合等、当該支店の所得に係るトップアップ税額をゼロとする特例措置を遡及的に適用できるようにすることもお願いしたい。

「外国子会社合算税制(CFC 税制)」については、グローバル・ミニマム課税の計算方法や必要情報の利活用、適用免除税率の引き下げ(20%から 15%へ変更)などによる企業の事務負担軽減を求めると共に、「日本の課税ベースの浸食を確実に防止する」という制度本来の目的を軸とした、目的外の増税や過剰な合算課税の見直し(海外 M&A により取得した外国関係会社や清算中の外国関係会社の取扱いの見直し等)を求める。

また、第 1 の柱の「市場国への新たな課税権の配分」についても、報告義務の緩和及び経過措置の導入など、税務行政の DX 化の推進も交えて企業の負担軽減をお願いしたい。



〔企画部〕

● RRI 活動報告

「サーキュラーエコノミー検討タスクホース」2024 年度報告書を公表

ロボット革命・産業 IoT イニシアティブ協議会(RRI)は、IoT による製造ビジネス変革 WG・国際標準化支援 AG(AG1)のタスクホース「サーキュラーエコノミー検討 TF」の 2024 年度活動報告書を公開しました。

IoT による製造ビジネス変革 WG・国際標準化支援 AG(AG1)は、国内のスマートマニュファクチャリング標準化団体・専門家が集い、情報を共有して、俯瞰的な視点でものづくりに関する標準化領域の特定などに取り組んでいます。

「サーキュラーエコノミー検討 TF」は、リサイクル、リユース、リマニュファクチャリングなど様々な資源循環の選択肢の中で、日本ではリサイクル以外の取り組みがまだまだ鈍い現状下、ユースケースの特定と共に日本が資源循環を進める上での標準化要件の抽出を行っています。

同報告書の概要は以下の通り。

資源枯渇、廃棄物増加への対策が喫緊の課題となる中、持続可能な社会の実現に向けて、従来の直線型経済から脱却し、資源の投入量と廃棄物排出量を最小限に抑え、資源を最大限に循環させる循環型経済(サーキュラーエコノミー)への転換が求められています。このような背景認識のもと、製造業におけるサーキュラーエコノミーの実現に必要な標準化に繋がる領域の特定をスコープとして、以下に焦点を当てて調査及び分析を行い、論点をまとめました。

- ・ 国内外のサーキュラーエコノミーに関する取り組み
- ・ 製品のライフサイクル全体(設計、製造、使用、回収、リユース、リサイクル)にわたる資源循環の実態と、それに伴う課題



同報告書の詳細は、RRIの以下のホームページにアクセスして下さい。

<https://www.jmfrri.gr.jp/library/library-6928/>

「産業データ連携アクショングループ」2024 年度報告書を公表

ロボット革命・産業 IoT イニシアティブ協議会(RRI)は、IoT による製造ビジネス変革 WG・「産業データ連携アクショングループ AG(AG4)」の 2024 年度活動報告書を公開しました。

IoT の普及や生成 AI の進展、データスペースの社会実装により、製造業を取り巻く環境は大きく変化しており、第 4 次産業革命の潮流はグローバルに拡大し、持続可能性や相互運用性を軸に新たなエコシステム形成が進んでいます。カーボンニュートラルや資源循環対応には産業データ連携が不可欠であり、欧州の電池規則に見られるように国際的要請も高まっています。この状況下、IoT による製造ビジネス変革 WG・「産業データ連携アクショングループ AG(AG4)」は 2023 年度に発足し、日本における製造データスペースの在り方について、国内関係各所との連携を行い、ステークホルダーが参照するシナリオとエビデンスのとりまとめを実施しています。

同報告書の概要は以下の通り。

産業データ連携アクショングループでは、2024 年度は 4 つのタスクフォース(TF)で活動を展開しました。本報告書はその成果を示し、日本の製造業が未来に向け描くべき姿を提示しています。

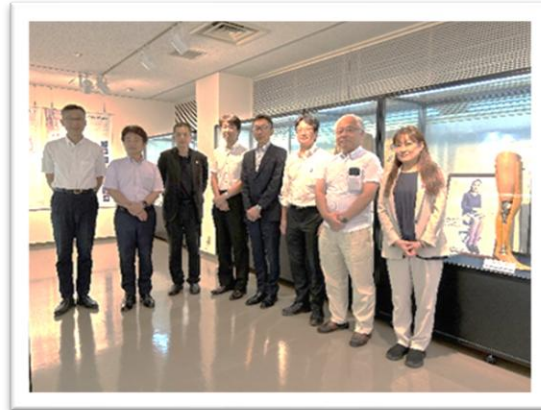
TF1 では Catena-X 等欧州先進事例を調査し、産業データ連携の仕組みや新たなビジネスを考察。TF2 では資源循環・脱炭素など社会課題に対応するユースケースを検討し、共通要件や仮説を整理。TF3 では設計・製造分野のデータを正確に共有するため、セマンティックな相互運用の仕組みを検討。TF4 では日欧の産官学と連携し、情報交換や共創活動を通じ制度設計や標準化への提言を行いました。

同報告書の詳細は、RRIの以下のホームページにアクセスして下さい。

<https://www.jmfrri.gr.jp/library/library-6812/>

日機連の動き

- 大阪事務所では、9 月 25 日(木)、第 609 回関西団体協議会(統括:藤下 日機連 常務理事)見学会を川村義肢(株)にて開催し、会社概要・取り組み等の説明を受け、製造工場・歴史展示室見学と多種車椅子体験の後、質疑応答を行った。



○ 今後の会合予定

開催日時		会合概要	場 所
10月	8日(水) 15:30~	第12回企業マネジメント研究委員会 テーマ:「パナソニックグループのサイバーセキュリティ戦略と工場&製品セキュリティの取組みの詳細(仮)」 講師:パナソニックホールディングス株式会社 サイバーセキュリティ統括室(兼)製品セキュリティセンター 松本哲也様	日機連会議室1
	10日(金) 15:00~	第129回環境配慮事例研究会・懇談会(大阪事務所)	日機連 大阪事務所
	14日(火) ~17(金)	IEC/TC44 総会(国際会議)他	日機連会議室 1・2・3
	20日(月) 17:00~	大阪機械広報懇話会 2025年度秋の広報セミナー・交流会(大阪事務所)	大阪 キャッスルホテル
	28日(火) 14:30~	第11回技術イノベーション研究委員会 テーマ:「NEC独自のロボット制御技術 ~人が活動し変化する環境でも導入可能なロボット制御技術~(仮)」 講師:日本電気(株)(NEC) グローバルイノベーションビジネスユニット ビジュアルインテリジェンス研究所 所長 宮野博義様	会議室1 お試し WEB 参加募集中
11月	4日(火)- 5日(水)	第12回 GVC 研究委員会&第13回企業マネジメント研究委員会 合同見学会	広島市

ロボット革命・産業 IoT イニシアティブ協議会(RRI) 「第4回 VUCA 時代に求められる未来を設計するための準備ワークショップ」 参加者の募集について

ロボット革命・産業 IoT イニシアティブ協議会(RRI)が、2025 年 11 月 19 日(水)10:00~17:00 に開催する予定の「第4回 VUCA 時代に求められる未来を設計するための準備ワークショップ」参加者募集についてお知らせします。

RRI の WG1(IoT による製造ビジネス変革 WG)は、第四次産業革命など製造業のビジネス変革をテーマに活動を続けています。その中に設置した「産業 IoT ロードマップ調査研究委員会」は単なるテクノロジーだけでなく、社会課題に向けた製造業のあるべき姿およびアプローチを見出すべく 2018 年度より活動を行っており、本委員会は WG1 の中長期的な方向を見出すものとして位置づけられています。

同委員会は、[2023 年度の産業 IoT ロードマップを発表](#)しました。この委員会では、未知の未来を設計するために、2018 年度から慶應 SDM 白坂研究室のご支援ご協力のもと、システムズエンジニアリングやシステムズアプローチを活用してきました。2024 年度からは、委員会で進めて来たこれらの考え方を、ワークショップ形式の体験コースとして用意しました。その第 1 弾が今回の 1 日コースの準備ワークショップです。先般行いました第 1 回~第 3 回が好評につき、今回第 4 回を実施します。また、準備ワークショップを経て更に理解を深めたい方に向けた、5 日コース程度の第 2 弾のワークショップを検討中です。

VUCA 時代と言われる中での第 4 次産業革命・DX・Society5.0 への対応、そして近年ではデータ連携が大きな話題となっていますが、こうした変化に対し自ら考え自ら解を導き出す 時代を迎えています。用意するワークショップは、どのように考える力を付けていけばいいのかを、体験的に学ぶ場となっています。

日頃、下記のような疑問をお持ちの方は、是非ご参加ください。事前の知識は不要です。

- ・第 4 次産業革命・Society5.0 における DX がどのようなものなのか悩んでいる。
- ・DX をどう取組めば良いかモヤモヤしている。
- ・懸命にやったはずの結果が「失われた 30 年」となり、何がまずかったのかよく分からない。
- ・ゼロからの新システム・新サービス開発と、今までのやり方との違いが上手く言葉にできない。
- ・認知・認知バイアスに興味がある。全体俯瞰やメタ認知を自分の言葉で語れるようになりたい。
- ・今、何だかよく分からない閉塞感を感じている。突破口を見出したい。
- ・これまで自信を持っていろいろ取組んできた。自分なりに総括してみたい。

● 準備ワークショップの概要

身近で日常的な題材を用いた、認知・メタ認知に着目したワークショップ形式の体験型セミナーです。グループを作りワークショップを行いますので、申込みされた方はできるだけ都合を付けてご参

加ください。なお、同一会社及び団体からの参加人数制限はありません。

第4回 VUCA 時代に求められる未来を設計するための準備ワークショップ 概要

日 時 : 2025 年 11 月 19 日(水)10:00~17:00

場 所 : 東京都新宿区高田馬場 1 丁目 31-18 高田馬場センタービル 12 階

募集人数 : 最大で 30 人程度(4~5 人/組 × 4~6 組程度)

参加費 : 無料(飲物・昼食は各自ご用意ください) 申込締切 : 10 月 29 日(水)

主 催 : RRI(協力:慶應 SDM 白坂研究室)

参加申込み方法:こちらの【[参加お申込みフォーム](#)】をクリックし、入力フォームに必要な事項をご入力ください。

※ 本講座へは RRI 会員以外の方にもご参加頂けます。

※ 同一会社及び団体からの参加人数制限はありません。複数名ご参加の場合、個人ごとにそれぞれでお申し込み頂きますようお願いいたします。

※ ワークショップ終了後、懇親会(任意参加・有料)を開催する予定です。

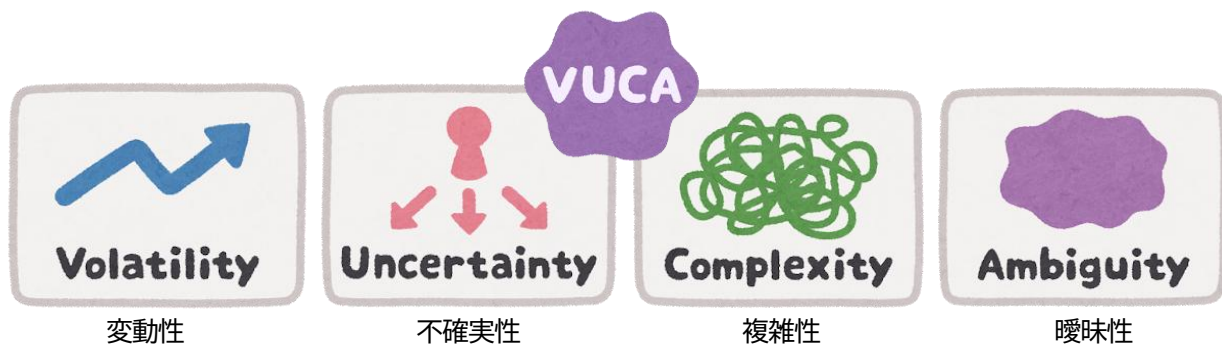
時間:17:30~19:30

参加費:有料(4,000 円程度の予定です)

※ お申込み頂いた方へは、11 月 3 日(月)頃にご参加確認のメールをお送りする予定です。

<参考:カリキュラム例>

1. 製作物のアイデア出し(ブレスト)
2. アイデアの分類
3. 製作物の定義
4. 価値創出 魅力ある物にするキーワード探し
5. アイデア化
6. 検証
7. 適合性確認



ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会
Robot Revolution & Industrial IoT Initiative

なお、[詳細は RRI ホームページにアクセス](#)願います。

〔ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会(RRI)〕



会員イベント情報

(一社)日本フルードパワー工業会「2025 年度第 2 回目油圧講座・空気圧講座」のご案内

[一般社団法人 日本フルードパワー工業会\(JFPA\)](#)では、人材育成の一環として、本年度の第 2 回目の油圧・空気圧の講座を開催いたします。油圧・空気圧ともに講座内容としては、座学と製品実習の2種類を用意しています。頭による理解(座学)と体による理解(製品実習)の双方により、より深く理解できます。若手社員の方々へのスキルアップの場として、ご活用頂けますようお願い申し上げます。なお本講座への参加は、当工業会会員企業の方及び一般の方も参加可能です(参加者多数の場合は当工業会会員企業の方を優先とさせていただきます)。勉強という堅苦しいものではなく、座学も製品実習も体験して楽しく学べる講座となっていますので、皆様の参加をお待ちしております。

記

1. 油圧講座

1-1. 座学 基礎編

- ・日時:2025 年 11 月 10 日(月) 13:00~16:30 ・開催方法:ハイブリット方式
- ・会場:[機械振興会館](#) 会議室 地下3階 B3-2 ・Web接続(Micro Soft Teams)
- ・講師:油研工業(株) 日野武彦氏 ・定員:20 名(最大)
- ・受講対象者:油圧実務経験 0.5 年程度 ~ 空気圧実務経験 2 年程度の方
- ・受講料: 会員 :5 千円/人 一般 :1 万円/人



1-2. 製品実習 入門編・基礎編

- ・日時:2025 年 11 月 14 日(金) 13:30~16:20 (受付 13:00~13:30)
- ・会場:[川崎重工業株式会社 精密機械・ロボットカンパニー 研修センター\(西神戸工場内\)](#)
- ・講師:川崎重工業(株) 原田隆史氏 ・定員:16 名(最大)
- ・受講対象者 油圧実務経験 未経験の方から受講可能 (空気圧実務経験 未経験~2 年程度)
- ・受講料 会員:1 万円/人 一般:2 万円/人

2. 空気圧講座

2-1. 座学 基礎編

- ・日時:2025 年 11 月 7 日(金) 13:00~16:50 ・開催方法:Web 参加のみ(Micro Soft Teams)
- ・講師:(一社)日本フルードパワー工業会 大熊正博 ・定員:20 名(最大)
- ・受講対象者:空気圧実務経験 未経験 ~ 0.5 年程度の方
- ・受講料: 会員 :5 千円/人 一般 :1 万円/人

2-2. 製品実習 入門編・基礎編

- ・日時:2025 年 11 月 13 日(木) 13:00~16:30 ・会場:[機械振興会館](#) 会議室 地下3階 B3-2
- ・講師:(一社)日本フルードパワー工業会 大熊正博 ・定員:10 名(最大)
- ・受講対象者:空気圧実務経験 未経験の方から受講可能 (空気圧実務経験 未経験~2 年程度)
- ・受講料 会員:1 万円/人 一般 :2 万円/人



一般社団法人

日本フルードパワー工業会

Japan Fluid Power Association

各講座の講座内容、申込方法等の詳細は、[こちらから公式ホームページのトピックをご確認下さい。](#)

(一社) 日本工作機械工業会 第 8 回「工作機械検定 (MT 検定)」開催のお知らせ

一般社団法人 日本工作機械工業会(JMTBA)では、学生や社会人の方々に工作機械の見識を深める向学心を喚起して頂き、併せて、工作機械を知らない方にも、ものづくりや工作機械へ興味を持って頂くため、毎年「工作機械検定(MT 検定)」を実施しており、今年で第8回目を迎えます。お名前とメールアドレスのご登録だけで簡単に回答応募ができ、PC・スマホがあれば、どなたもお気軽に無料でご参加頂ける検定試験です。その場で合否判定が可能で、合格者には認定証が発行されます。学生の皆さんは就職活動を行う際、履歴書に工作機械検定の取得歴を記載ください。皆様の、奮ってのご参加をお待ちしております！！

記

第 8 回 (1 級～3 級) 工作機械検定 (受験料無料) 概要

- ・1 級…学生の皆さん、工作機械業界や機械系の企業に従事されている方を対象に、難易度を上げた出題内容としています。受験者自ら調べて回答頂くことで、ものづくりへの興味や理解を深めて頂きたいと存じます。工作機械について知見を深める参考資料としては、「工作機械設計学(基礎編・応用編)」があります。
 - ・2 級…高専や工業高校・大学などで機械工学の勉強をされている方、一般の方々を対象に、工作機械の役割や種類、歴史や市場など、幅広い観点から工作機械への知見を深めて頂くため、サイト内のヒント集を見て回答できる内容としました。
 - ・3 級…小学生、中学生の皆さんを対象に、工作機械やものづくりに興味を持って頂くための問題を用意しました。
- 1 級・2 級の応募期間は、10/1～12/31 合格者に認定証発行 3 級は通年実施、いつでも受験可能
なお、学生の合格者(高専・大学の学生は 2 級以上の合格者)を対象に、「トコトンやさしい工作機械の本」を抽選で 50 名様に贈呈いたします！ また、学生の合格者(高専・大学の学生は 2 級以上の合格者)で希望される方には、日本工作機械工業会会員企業の訪問先をご紹介します！

MT 検定
工作機械 検定
M A C H I N E T O O L



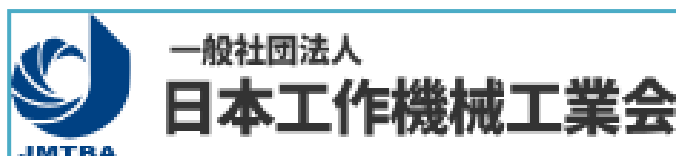
<https://www.mt-kentei.jp>

第 8 回「MT 検定」オフィシャルサイトへのリンクはこちらから！！

なお、工作機械・ものづくり関連施設は、日本全国の様々な博物館・資料館等で公開されております。ご興味を持たれた際には、ぜひ、チェックしてみてください。

- ・日本工業大学工業技術博物館(埼玉県・南埼玉郡宮代町) <https://hotozero.com/museum/nit-museum/>
- ・科学博物館(東京都・台東区上野) <https://www.kahaku.go.jp/>
- ・TEPIA 先端技術館(東京都・港区北青山) <https://www.tepia.jp/exhibition>
- ・三共工作機械資料館(静岡県・菊川市) <https://www.sankyo-seisakusho.co.jp/museum/index.html>
- ・ヤマザキマザック工作機械博物館(岐阜県・美濃加茂市) <https://machine-tools-museum.mazak.com/>

第 8 回「MT 検定」のパンフレットはこちら！！



お知らせ

(一社) 日本食品機械工業会 「FOOMA JAPAN 2026」出展のご案内

一般社団法人 日本食品機械工業会(FOOMA)では、2026 年 6 月 2 日(火)~6 月 5 日(金)の午前 10 時~午後 5 時、東京ビッグサイト 西展示棟 1~4 ホール/東展示棟 1~3・7・8 ホールにて、世界最大級の食品製造総合展「FOOMA JAPAN 2026」を開催いたします。2026 年の FOOMA JAPAN では、「The Shift is On.」をテーマに掲げ、今まさに進行する業界の変化に正面から向き合います。

この度、FOOMA JAPAN 2026 のオフィシャルサイトにて、出展募集が開始されましたので、お知らせいたします。FOOMA JAPAN への出展は、自社ソリューションを広くアピールしてビジネスを拡大する絶好の機会です。多彩なサービスを活用し、出展効果を最大化しましょう。[出展に関する詳細は、オフィシャルサイトをご参照ください](#)。なお、2017 年以降に会社を設立した企業は[スタートアップゾーン](#)へ出展申込をいただけます。[スタートアップゾーンへの出展については、詳細ページを参照](#)してください。

出展申し込みの締切日は、2025 年 10 月 20 日(月) 23 時 59 分 59 秒までです。

記

FOOMA JAPAN 2026 概要

目的：食品機械・装置および関連機器に関する技術ならびに情報の交流と普及をはかり、併せて食品産業の一層の発展に寄与することとし、「食の安全・安心」に関心が高まる中、食品機械の最先端テクノロジー、製品、サービスを通して、「食の技術が拓く、ゆたかな未来」を提案する。

会期：2026 年 6 月 2 日(火)~5 日(金) 4 日間

時間：午前 10 時~午後 5 時

会場：東京ビッグサイト 西展示棟 1~4 ホール/東展示棟 1~3・7・8 ホール

テーマ：The Shift is On.

主催：一般社団法人 日本食品機械工業会



—— 世界最大級の食品製造総合展 ——

FOOMA
JAPAN FOOD PROCESSING
TECHNOLOGY EXPO

2026 東京
ビッグサイト

6/2 火 **5** 金 10:00
17:00

主催：一般社団法人 日本食品機械工業会

[出展募集の詳細や申込につきましては、オフィシャルサイトのこちらをご参照ください。](#)

(一社) 日本機械学会主催「産業界と学術界の協創ーニーズとシーズをつなぐ会」
開催のお知らせ

一般社団法人 日本機械学会より当会に対して、同学会主催のオンライン特別講演会「産業界と学術界の協創ーニーズとシーズをつなぐ会」開催について、広報依頼がありましたので、お知らせ致します。

記

機素潤滑設計部門と産業・化学機械と安全部門は合同による、産業に存在する課題と学術領域における技術開発とが融合し、互いに手を携えて製品開発を手がけ、課題解決に向けての糸口を見いだした例を紹介する研究会です。「産業界のニーズ(Needs)」と「学術領域のシーズ(Seeds)」を結びつけること、将来的には両者のマッチングも行うことも考慮しています。機械要素や潤滑法から始まり、製品に対する安全・安心な設計・製造の方法、効率化や管理の課程での知見、使用者側からみた製品の使い勝手や安全・安心感の定量評価に至るまでを網羅した産業・学術における専門家がペアとなり、一堂に会し、相互の情報交換を行います。産業界からはどのようなニーズがあり、どのようなシーズが必要であったか、そしてできあがった製品をどのように市場で展開しているかなど、マーケティングにおいての見解を述べていただく一方、カウンタパートである学術側からは、開発に至るきっかけや技術への思い、産業界との融合の際に工夫した点などを発表する予定です。

記

- 【開催日】 2025 年 11 月 1 日 (土) 13:00~17:00 オンライン開催(Zoom)
- 【講師】 北條理恵子 長岡技術科学大学システム安全工学分野 准教授
穴田啓樹 株式会社アトリエ 取締役
清水尚憲 長岡技術科学大学安全・安心社会研究センター 客員研究員
酒井孝・ジー・オー・ピー株式会社 営業部部長
田中 英一郎・早稲田大学 理工学術院 大学院情報生産システム研究科 教授
河原裕美・株式会社スペース・バイオ・ラボラトリーズ 社長
三好孝典 長岡技術科学大学システム安全工学分野 教授
- 【定員】 オンライン受講:80 名
- 【参加費】オンライン受講(Zoom) 正員:2500 円、会員外:3000 円、学生員:無料、一般学生:500 円
- 【申込方法】 ホームページ記載の注意事項を予めご一読の上、Payvent でのお支払いをお願いいたします。1 名ずつお申込みください。
申込先 URL: https://app.payvent.net/embedded_forms/show/68b78de4b9a7282134dd88fd
- 【申込締切】 2025 年 10 月 15 日(水)
- 【問合せ先】 〒162-0814 東京都新宿区新小川町 4 番 1 号 KDX 飯田橋スクエア 2 階
(一社)日本機械学会 産業・化学機械と安全部門(担当職員 北沢)
電話:03-4335-7610 E-mail:kitazawa@jsme.or.jp

詳細は次のURLまで <https://www.jsme.or.jp/event/25-138/>